

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと  
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 639 2021年  
1月号  
1部60円  
友の会会員は会費に含まれています  
発行 東京勤労者医療会代々木病院  
院長 河邊 博正  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7  
TEL 03(3404)7661  
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi



謹賀新年



2021年 代々木病院職員一同

新年ごあいさつ

院長 河邊 博正



新年ごあいさつ

看護部長 鈴木 海



新年ごあいさつ

事務長 澤田 和恵



明けましておめでとうございます。昨年来世  
界中でコロナウイルスが猛威を振るい、現在も  
その勢いはまだ収まっています。たくさんの  
方の命がコロナにより失われました。御商売を  
されている方の御苦労も計り知れません。安倍  
政権ではコロナ対策が後手となり、その不十分  
な対応がアベノマスクなどと揶揄され、その後  
任である菅内閣も同様に効果的な対策を打てず  
にいます。

対応を続け、医療活動を途切れなく進めて参り  
ます。  
患者さんや御家族の皆さんには面会制限など  
の不自由をおかけしますが、オンライン面会は  
可能ですので御理解のほど宜しくお願いしま  
す。また、ころばん体操ほかすべての活動を一  
時休止しております。「運動が出来ず体力が落  
ちた」「人との会話がなくなり気持ちが暗くな  
る」などの声を頂きます。  
With Coronaの中でどのように日  
常生活を送るか、知恵を出し合いともに協力し  
この苦境をみんなで乗り越えましょう。

新年あけましておめでとうございます。例年  
とは違う年末年始をどのように迎えられるたでし  
ようか。  
2020年は感染症対策に明け暮れた1年と  
なりました。実態のよくわからないウイルスへ  
の恐怖を抱えながら、院内感染を起こしてはな  
らないと必死で対応してきました。かかりつけ  
の患者さんをいつでも受け入れることができる  
ようにと体制づくりを行いました。幸いなこと  
に感染を広げることなく対応できたのは、しつ  
かりとした感染対策を行った職員一人一人の努  
力の成果だったと誇らしく思います。

感染の波はまだまだ予断を許さない状況で  
す。病院をまもり、患者の皆様をまもり、職員  
をまもることを第一に感染対策を継続してい  
ます。  
2021年はこれまで以上に看護師一人ひと  
りが学び成長していく年にしていきたいと思っ  
ています。認知症看護、リハビリ看護、在宅支  
援など、目標をもって取り組んでいきたいと思  
います。患者さんの体に何が起きているかを  
理解し、患者さんの苦痛に寄り添い、患者さん  
の願いをかなえる看護ができる、そんな看護集  
団でありたいと思います。

新年明けましておめでとうございます。昨年  
中は、友の会・地域の皆さんから励ましのお言  
葉や暖かい支援物資を戴き、心から御礼申し上  
げます。  
新型コロナウイルス感染拡大の中、病院は急激な収益  
減少に見舞われています。緊急事態宣言後、健  
診活動、検査・手術の休止、保育園・小学校一  
斉休校による診療体制の困難さ、感染不安によ  
る受診控え、また代々木病院は、機能分化のな  
か地域連携に依拠した入院患者の紹介が8割を  
占め、大病院の医療の変化による紹介患者の激  
減という大打撃を受け続けています。

「1ト合唱」の取組み、患者さん・ご家族の「リ  
モート面会」など取り組んでまいりました。  
一方で政府は、布マスク配布、分断をほらむ  
医療従事者慰労金、Go Toキャンペーンな  
どの外れな施策ばかりです。感染対策強化には  
医療機関への真水の資金投入が必須です。医療  
従事者を増やし、診療報酬を増やす、患者負担  
は減らす、私たちがこれまで訴えてきたことが  
改めて大切となっています。

こうした中、医師、看護師をはじめすべての  
スタッフが患者さんに寄り添い感染を出さない  
取り組み、精神科デイケアでの「民衆の歌りモ

コロナ禍のもと、すべてを弱肉強食の市場原  
理に委ね経済効率のみ優先し、社会保障を縮小  
してきた新自由主義の弊害が明らかにになりまし  
た。生存権さえ脅かされる中、人権が守られる  
社会をどう作るか、貧困・格差のない平和な社  
会への転換を目指し団結していきましょう。

千駄の萱

あけまして  
おめでとうご  
ざいます。  
新型コロナウイルス  
のおかげで  
「おめでとう」  
と言いくらい情勢でも、  
やはり日本の新年はこの  
一言から始まりたいも  
の。とは言え第3波と言  
われる世界的な大流行は  
収まる気配を見せず、累  
計罹患患者数は世界で60  
00万人を突破。日本でも  
16万人を超え、春の時  
点よりも速いペースで拡  
大しているのはご存じの  
通り。ワクチンは一部の  
国で先行投与が開始さ  
れ、治療薬も既存薬の中  
から一定の効果が出ては  
いるものの、流行を止め  
るにはまだまだ時間がか  
かる状況は変わらない。  
一方で例年この時期に猛  
威を振るうインフルエン  
ザが「消滅状態」と言わ  
れるほど発生していな  
い。厚労省が出す最新の  
定点観測発表2020年  
11月23日〜29日の集計数  
字では全国の罹患患者数46  
人。昨年同期は2730  
0人なので600分の1  
である。インフルエンザ  
の年間患者数は約100  
0万人、亡くなる方が1  
万5千5百人に及ぶこ  
とを考えると、年間を通  
じての感染対策が別の形  
でも活きたと思える。1  
年後には心の底から「お  
めでとう」と言いたいも  
のだ。